

モモアカノスリのパーチング行動の要因について

上夏井 あずさ
(よこはま動物園)

よこはま動物園では「アフリカのサバンナ」一部オープンに伴い、2013年4月から猛禽類・インコ類を中心としたバードショーを開始した。フリーフライトにより来園者の頭上を鳥が飛び、さまざまな種類を近い距離で見ることができる。さらにショー中には参加型のプログラムがいくつかあり、その中でもモモアカノスリ (*Parabuteo unicinctus*) を来園者の腕に止まらせる鷹匠体験が人気である。

フリーフライトを行う上で課題となるのが、フライト中にスタッフの意図しない場所へ鳥が飛んで行ってしまうパーチング行動である。特にモモアカノスリによるパーチング行動は他種に比べて多く、ショーをする上での大きな課題となっている。今回2014年から2020年までの7年間で起きたモモアカノスリ No. 2: 雌のパーチング行動の要因の分析を行った。

パーチング行動の要因には、環境等の外的要因、トレーニングの内容や量、体重や餌の量等の複数の要因が重なっていると予想されたが、鳥を扱う職員との関係性等の条件も一定ではないため、それらの関連性はわからなかった。しかし今回の分析によって、単に体重だけでなく運動量が多くなれば筋肉量も増えて餌への執着がより強くなる可能性も示唆され、運動量を増やすトレーニングの必要性が感じられた。また、鳥にとって鷹匠体験の印象が悪くなっていることも予想され、それについては印象の良化を目指したトレーニングやショー内容になるように工夫していきたい。